

10001

仏教 I (瞑想)

S 桃尾幸順 藤谷厚生

⑩ 仏教 I (瞑想)

〔概要〕 徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積まれ、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛え学習する場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与える所として施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。献灯に始まって読経、止観（心を静めて思索すること。瞑想ともいう）、聞法（学習）、聖歌斉唱が行なわれる。

〔到達目標〕 全霊をあげての六波羅蜜の実修であり、人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(1) | 9 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(9) |
| 2 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(2) | 10 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(10) |
| 3 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(3) | 11 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(11) |
| 4 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(4) | 12 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(12) |
| 5 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(5) | 13 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(13) |
| 6 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(6) | 14 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(14) |
| 7 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(7) | 15 学期まとめ |
| 8 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。(8) | |

〔テキスト〕 『聖典・聖歌』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

〔参考文献〕 適宜プリント配布

〔授業形態〕 実践演習

〔成績評価の方法〕 平常点 100 %

10002

仏教Ⅱ（瞑想）

W 桃尾幸順 藤谷厚生

⑩仏教Ⅱ（瞑想）

〔概要〕 徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積まれ、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛え学習する場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与える所として施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。「仏教Ⅰ」に引き続き、献灯に始まって読経、止観（心を静めて思索すること。瞑想ともいう）、聞法（学習）、聖歌斉唱が行なわれる。

〔到達目標〕 全霊をあげての六波羅蜜の実修であり、人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（1） | 行なう。（8） |
| 2 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（2） | 9 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（9） |
| 3 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（3） | 10 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（10） |
| 4 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（4） | 11 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（11） |
| 5 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（5） | 12 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（12） |
| 6 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（6） | 13 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（13） |
| 7 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（7） | 14 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（14） |
| 8 献灯、読経、瞑想、聞法（学習）、聖歌斉唱を行なう。（8） | 15 学期まとめ |

〔テキスト〕 『聖典・聖歌』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

〔参考文献〕 適宜プリント配布

〔授業形態〕 実践演習

〔成績評価の方法〕 平常点 100 %

10003

仏教Ⅲ（写経）

S 桃尾幸順 藤谷厚生 兼子恵順 木村俊彦 西岡祖秀

⑩仏教Ⅲ（写経）

〔概 要〕・〔授業目的〕 徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積まれ、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意思を鍛える場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与えるところとして施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。この科目では献灯、読経、止観、写経、聖歌斉唱を執り行なうことによって、全霊を挙げて六波羅蜜を実習し、人格の完成を目指すとともに、諸教科の学修の心構えと態度を身につけるのである。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(1) | 9 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(9) |
| 2 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(2) | 10 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(10) |
| 3 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(3) | 11 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(11) |
| 4 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(4) | 12 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(12) |
| 5 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(5) | 13 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(13) |
| 6 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(6) | 14 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(14) |
| 7 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(7) | 15 学期まとめ |
| 8 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(8) | |

〔テキスト〕『聖典・聖歌』『写経必携』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

〔参考文献〕適宜プリント配布

〔授業形態〕実践演習

〔成績評価の方法〕写経提出および平常点で100%

10004

仏教Ⅳ（写経）

W 桃尾幸順 藤谷厚生 兼子恵順 木村俊彦 西岡祖秀

⑩仏教Ⅳ（写経）

〔概要〕・〔授業目的〕 徹底して慈しみと慎みと忍耐、努力、学習、思索の生活（六波羅蜜という）を送って、釈尊はご自身の人格を完成するとともに悟りを開かれた。本学の創始者と言える聖徳太子も、同じくこの六波羅蜜の行を積まれ、併せて、四天王寺敬田院（今の四天王寺学園）を造営された。敬田院は、人々が自ら宗教的情操を涵養し、人格の陶冶をはかり、広範にして深い知識と高い技術を修得し、理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛え学習する場所であった。また貧者や身寄りの無い人々のためには同寺に悲田院、病人の治療のためには療病院、薬草を植えて採取し、それを調合して与える所として施薬院を設けられた。本学は、四天王寺の敬田院事業であるから、上記の敬田院の目的が達成されるよう、そのカリキュラムが組まれる。「仏教Ⅲ」に引き続き、献灯、読経、止観、写経、聖歌斉唱を執り行なうことによって、全霊を挙げて六波羅蜜を実修し、人格の完成を目指すとともに、諸教科学修の心構えと態度を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(1) | 9 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(9) |
| 2 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(2) | 10 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(10) |
| 3 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(3) | 11 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(11) |
| 4 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(4) | 12 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(12) |
| 5 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(5) | 13 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(13) |
| 6 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(6) | 14 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(14) |
| 7 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(7) | 15 学期まとめ |
| 8 献灯、読経、瞑想、写経、聖歌斉唱を行なう。
(8) | |

〔テキスト〕『聖典・聖歌』『写経必携』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

〔参考文献〕適宜プリント配布

〔授業形態〕実践演習

〔成績評価の方法〕写経提出および平常点で100%

10005

聖徳太子概説

S / W 兼子恵順

⑩聖徳太子概説

〔概要〕 聖徳太子は、仏教の本質的な把握による人間・社会への鋭い洞察をもって、日本の歴史の中に真実をもたらそうとする普遍的・利他的な道を切り開かれた。太子の事績を概観するとともに、十七条憲法・遺戒・三経義疏を通じて、太子における仏教受容とその歴史的意義について考える。

〔到達目標〕 聖徳太子の主な事績及び仏教受容とその歴史的意義についての理解。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|
| 1 「和国教主聖徳皇」 | 6 太子の事績 (5) | 11 太子の遺戒と仏教 (1) |
| 2 太子の事績 (1) | 7 太子の事績 (6) | 12 太子の遺戒と仏教 (2) |
| 3 太子の事績 (2) | 8 太子の事績 (7) | 13 三経義疏 (1) |
| 4 太子の事績 (3) | 9 十七条憲法と仏教 (1) | 14 三経義疏 (2) |
| 5 太子の事績 (4) | 10 十七条憲法と仏教 (2) | 15 定期試験 |

〔テキスト〕配布資料

〔参考文献〕坂本太郎著『聖徳太子』（吉川弘文館）、中村元著『聖徳太子』（中央公論社）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験（80%）、平常点（20%）

10005

聖徳太子概説

S / W 藤谷厚生

⑩聖徳太子概説

〔授業題目〕 聖徳太子の業績とその思想

〔概要〕 聖徳太子の事績を概観するとともに、十七条憲法・遺誡・三経義疏を通じて、太子における仏教受容とその歴史的意義について考える。

〔到達目標〕 聖徳太子がなされた歴史的業績、さらに太子が説かれた大乘仏教思想の特性の基礎理解を目標とする。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 1 太子と日本国の黎明 | 6 仏教の思想 | 11 太子と日本古代文化 |
| 2 太子の時代1 | 7 三経と大乘仏教思想 | 12 太子と日本仏教 |
| 3 太子の時代2 | 8 三経義疏1 | 13 太子信仰 |
| 4 太子の政治論 | 9 三経義疏2 | 14 太子精神の今日的意義 |
| 5 憲法十七条 | 10 三経義疏3 | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 瀧藤尊教著『以和為貴 聖徳太子の信仰と思想』（善本社）ほか

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点等 20 %

10005

聖徳太子概説

S / W 桃尾幸順

⑩聖徳太子概説

〔概要〕 聖徳太子は、仏教の本質的把握による人間・社会への鋭い洞察をもって「和」を提唱し、日本の歴史の中に真実をもたらそうとする普遍的・利他的な道を切り開かれた。本講義は、太子における仏教受容とその歴史的意義を明らかにする。そのため、『日本書紀』等の関係史料に伝えられる太子の事績を概観するとともに、太子の遺語や「十七条憲法」「三経義疏」等に伝えられる太子の仏教精神を理解することを内容とする。講義を中心とし、併せて関係史（資）料の講読を行う。

〔到達目標〕 聖徳太子の思想や業績を理解し、その日本の歴史上の意義と日本文化や日本人の価値観・考え方の影響の大きさを認識する。

〔授業計画〕

- | | | |
|--------------|------------------|------------------|
| 1 聖徳太子の時代 | 6 聖徳太子の社会事業 | 11 『維摩経義疏』の思想（2） |
| 2 聖徳太子の政治 | 7 聖徳太子と仏教 | 12 『法華経義疏』の思想 |
| 3 聖徳太子の外交 | 8 『勝鬘経義疏』の思想（1） | 13 日本仏教における聖徳太子 |
| 4 「十七条憲法」の内容 | 9 『勝鬘経義疏』の思想（2） | 14 聖徳太子信仰 |
| 5 「十七条憲法」の理念 | 10 『維摩経義疏』の思想（1） | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 『聖典・聖歌』（四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、毎講義時のレポート 30 %

10009

人権・同和問題論

W 田原範子

⑩人権・同和問題論

〔概要〕 現代社会における様々な「社会問題」を具体的に学ぶことを通して、グローバル化が進展する社会における諸矛盾とその発生メカニズムを分析する。世界人権宣言、経済的・社会的及び文化的権利に関する国際規約、児童の権利に関する条約、先住民の権利に関する条約を学び、国際化の時代にふさわしい人権教育を行う。授業は、講義を中心としながらグループ単位の討議を行い、当事者である外部講師を招聘することで人権意識を確実なものとする。

〔到達目標〕 人権にかかわる国際的動向を知り、バランスのとれた人権感覚および自由についての意識を獲得する。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|-----------------|------------|
| 1 現代社会における諸問題 | 7 生活における諸問題（1） | 12 先住民族の権利 |
| 2 社会学的想像力 | 8 生活における諸問題（2） | 13 こどもの権利 |
| 3 自文化中心主義 | 9 医療化社会における心と身体 | 14 女性の権利 |
| 4 問題の文化的構築 | 10 異文化における心と身体 | 15 世界人権宣言 |
| 5 問題の社会的構築 | 11 市民的及び政治的権利 | |
| 6 問題の歴史的構築 | | |

〔テキスト〕 ヒラリー・プール『世界の人権』 明石書店 2001年

〔参考文献〕 松永信也『「見えない」世界で生きること』 角川学芸出版 2008年

〔授業形態〕

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 50 %、平常点 50 %

10009

人権・同和問題論

S / W 齋藤直子

⑩人権・同和問題論

〔概要〕・〔到達目標〕本講義は、さまざまな人権問題に関する知識を身につけ、それを通じて受講者のみなさんが人権を自らの問題として認識し、考えるようになることを到達目標としています。講義ではまず、人権という概念に関する基本的な知識を学び、次にさまざまな人権問題について学習します。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 ガイダンス | 8 ストーカー |
| 2 人権とは何か その1 世界人権宣言 | 9 若者と労働 その1 フリーター・ニート |
| 3 人権とは何か その2 子どもの権利条約 | 10 若者と労働 その2 ワーキングプア |
| 4 人権とは何か その3 自尊感情と人権 | 11 若者と労働 その3 外国人労働者 |
| 5 キャンパス・セクシュアルハラスメント
その1 | 12 同和問題 その1 歴史 |
| 6 キャンパス・セクシュアルハラスメント
その2 | 13 同和問題 その2 現代における問題 |
| 7 デートDV | 14 同和問題 その3 結婚差別 |
| | 15 まとめと定期試験 |

〔テキスト〕 特になし

〔参考文献〕 授業中に適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

10009

人権・同和問題論

S 曾和信一

⑩人権・同和問題論

〔授業題目〕 私にとっての人権問題を考える

〔概要〕 人権・同和問題を主に文化と教育という視点から考えていくことにする。またその問題が人権文化の創造と密接に関連しているだけに、その文化の内実についても、考察を深めることにする。

〔到達目標〕 人権・同和問題の本質に迫るとともに、その問題の解決に向けての方法について検討を行い、不合理な差別をなくす科学的認識の育成を目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1 授業ガイダンス等及び同和問題とは何かを考える | アメリカ合州国 (1) |
| 2 『となりのトトロ』から見る死者と生者との共生について考える (1) | 10 人権教育としての多文化共生教育を考える—
アメリカ合州国 (2) |
| 3 『となりのトトロ』から見る死者と生者との共生について考える (2) | 11 人権教育としての多文化共生教育を考える—
カナダ |
| 4 人権思想の歴史を考える | 12 人権教育としての多文化共生教育を考える—
オーストラリア |
| 5 人権思想の現在を考える | 13 人権教育としての多文化共生教育を考える—
ニュージーランド |
| 6 人権教育にとっての教育とは何かを考える | 14 私にとっての人権・同和問題を考える |
| 7 人権教育とは何かを考える | 15 まとめ及び定期試験 |
| 8 人権思想は近代を超えられるかを考える | |
| 9 人権教育としての多文化共生教育を考える— | |

〔テキスト〕 曾和信一著『人権の思想と教育の現在』（阿吽社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

10009

人権・同和問題論

S / W 堤圭史郎

㊤人権・同和問題論

〔授業題目〕 日常生活から人権を考える

〔概要〕 「人権が守られる」とはいかなることか。また、そもそも「人権」とはいかなる内包をもつものなのか。講義では具体的なテーマを通して、この何気ない問いから日常生活について考えたい。

〔到達目標〕 具体的なテーマを通して、自らそして他者の人権が大切にされるとはいかなることかについて捉え直し、理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 ホームレスの人々② |
| 2 「人権」とはなにか① | 10 ホームレスの人々③ |
| 3 「人権」とはなにか② | 11 同和問題について① |
| 4 「人権」の歴史 | 12 同和問題について② |
| 5 フリーターの人々① | 13 同和問題について③ |
| 6 フリーターの人々② | 14 「他者とともに生きる」ということ |
| 7 フリーターの人々③ | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 ホームレスの人々① | |

〔テキスト〕 特に指定しない。

〔参考文献〕 阿久澤麻理子、金子匡良『人権ってなに？ Q&A』（解放出版社）、他講義中に適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、小レポート等平常の課題 40 %